

第1回 市町村・公民館等職員専門研修 実施レポート

日時：令和8年7月22日（水） 参加者：29名（うち市町村から16名）

会場：秋田県生涯学習センター 講堂

県内の生涯学習・社会教育関係職員や公民館、市民センター等社会教育施設の職員に求められる資質や力量を高めることを目的として「地域のつながりづくりを支える社会教育の展開」をテーマに、今年度1回目の研修を行いました。

【前半 講話】

前半は、秋田県生涯学習センター社会教育主事 **和泉 洋介** が、【「正解を守る」から「最適を創る」へ ～誰もが主役になれる学びの場のデザイン～】と題して講話を行いました。

はじめに、各社会教育施設でユニバーサルスポーツを企画する際に、「障害理解に関する専門知識がない」「スペースが狭い」「施設が古い」といったためらいがあることに対し、「視点を切り替え、今あるリソース（資源）を最大限に活かした環境づくりや場づくりを考えてみませんか。」という提案をしました。

続いて、後半に行うボッチャのコート作りについて説明を行いました。その中で、限られたスペースの中で、多様な参加者が楽しめるコートにするという条件がつけられました。最後に、多くの人々が楽しめるようにするためには、「人が標準（ルール）に合わせるのではなく、環境の側が多様な選択肢を用意し、様々な立場の人が自分で条件を選べるようにすることが求められる。」と述べました。



【後半 演習】

後半は、3グループに分かれ、「ボッチャの公式なコートが設営できない限られたスペースで、車椅子を利用する人、椅子に座って投球する体力が低い人、ルールがよくわからない元気な児童など、多様な参加者が楽しめる『最適』なコートを手作りする。」というミッションに取り組みました。

Aグループは、コートの設計を行った後、コート作りに取りかかりました。さらに、実際に車椅子などを使ってプレーをして確認し、修正を加えながらコートを作りました。Bグループは、ボッチャを体験することから始め、それからコートの設計に取りかかり、最終的に、横長の長方形のコートを完成させました。Cグループは、実際にコート作りに取りかかった際に、設計を大幅に変更して全面をプレイイングエリアとする正方形のコートを完成させました。3グループとも参加者一人一人が積極的に意見を出し合い、試行錯誤しながらそれぞれの工夫を盛り込んでミッションに取り組んでいました。今回の研修は、講話と体験がセットになっていたため、より具体的に理解したり、想像したりしながら学びを深めることができた研修であり、参加者の感想から、今後、各市町村での具体的な取組が増えていくのではないかと感じました。



【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・スポーツのルールを、規則にとらわれずに自分で変えていく視点は、別の分野についても同じだなと思いました。今回はルールでしたが、みんなが参加できる工夫をたくさん見つけて改善していきたいです。
- ・環境を変える、工夫する、そもそもルールを変えるということをあまり考えたことがなかったので、いろいろ考えるきっかけになりました。
- ・決まったルールにとらわれず状況に合わせて対応することは、日々の接客業務に大変役に立つと思いました。